

# 自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>23</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>101</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホームいなほ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	津南町大字下船渡己5910-1
記入者名 (管理者)	渡 貫 一 芳
記入日	平成 21年 6月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成17年暮れに全職員で何をグループホームで重点的に取り組んでいくかを協議しながら、「いなほの風にふれてみませんか？」で始まる全4点の事業所独自の運営理念を作成する。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については玄関や事務室に掲示している。日々の実践や毎日のミーティング及び個別課題検討の機会の中で常に運営理念の共有や振り返りを行うよう努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族向けに毎月発行する「貝坂便り」及び年2回発行するNPO機関誌を通じてグループホームの活動や思いを紹介し、事業所理念の浸透を図っている。地域向けにはNPO機関誌配布時には「貝坂便り」も合わせて配布している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩を通じて常に近隣世帯との交流を図り、畑の作物等のいただき物がよくある。近隣者が集金来所時に幼児同伴し、入居者とリビングで交流することもある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	部落会費は一部であるが支払っている。地元祭りの神輿接待や1月どんど焼きに入居者と参加している。また、不定期にグループホームで開催する慰問演芸会に、近隣の高齢者を招待し地域とのつきあいを図っている。	○	例えば地域消防団との合同防災訓練や広報誌の回覧板を通しての周知等、さらなる取り組みを行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	内部研修会や広域行政研修会に参加し学習に努めているが、更なる研修を深める必要があると考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に契約書及び重要事項説明書、金銭等管理契約書の内容説明を行い、申し込み家族及び本人に理解と納得を得られるよう対話を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談人の受入れの実例はないが、入居者との日々のコミュニケーションの機会を通して、意見・要望・苦情等を引き出すように心掛け、情報を共有する中で可能なものはサービスに反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「貝坂便り」を発行し事業所の様子について報告すると共に、各担当より入居者の月の様子についてコメントした便りも合わせて郵送している。金銭出納帳及び受診記録の写しも毎月お便りと共にご家族へお渡ししている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡及び面会等の貴重な機会を出来る限り活用し、ご家族の意見や思い・苦情を出来るだけ引き出せる雰囲気作りに心掛けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に何回かの頻度で開催している運営会議や2カ月1回開催の内部研修会等の中で意見収集に努めると共に、職員の声を引き出せるようミーティング等で常に意見を求める姿勢を管理者は心掛けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や受診援助等、状況に応じて勤務調整を管理者中心に行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当異動では簡単な対応に努めているが、職員の退職・採用等については入居者の心のケアを出来る限り配慮し、十分な引継ぎや挨拶を行っている。また、ご家族への連絡も合わせて行っている。		
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	従来マニュアルの他に、業務マニュアル及び衛生対応マニュアルを新規整備し、必要に応じて適宜見直しを行っている。	○	まとめて見やすい位置に設置しているが、マニュアルの十分な活用と更なる適宜見直しを図る必要性を感じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低年一回全員が外部研修に出られるよう情報収集を図ると共に、各職員の到達度に応じた研修内容を提供するよう努めている。また2カ月に一回の頻度で内部研修会も開催している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われている魚沼地区グループホームの集いに参加する中で、事業所間の情報交換を行うと共に、年間1回～2回程度で近隣事業所での見学実習を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に行われる互助会的な職員交流行事を企画する他に、個別に職員の悩みを聞く機会を設け、スーパーバイズするよう努めている。特に新任職員に対しては一定期間相談職員を指定し、仕事上の悩みを聞ける体制をとっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所経過5年目となり該当職員には、介護福祉士及びケアマネージャーや防火管理者等の資格取得を助言している。また中堅職員に対しては秋季予定されている認知症介護実践者研修等への参加を模索するなど向上心を持ち続ける環境を醸成している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネや事前面談で本人の生活状況を把握し、ご家族と本人からのお話を聞くことで、本人の不安や要求等を少しでも受け止め理解するように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談を通じて通じて、ご家族からのお話を傾聴し不安や要望等を引き出し、それに対して理解するよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談を通じて、ご家族からのお話を傾聴し不安や要望等を引き出し、それに対してその時々々の助言を行ない、他のサービス情報の提供助言等で支援するよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族から事前に事業所を見学を行ってもらい、入居後も時間をかけて本人像を把握するよう努めている。しかし、本人の納得のいかないまま急な入居となるケースもあり、段階的に馴染みの関係を作れるよう図って行きたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや季節の行事及び花壇の水やり、野菜の収穫等入居者との協働での場面作りを心掛け、寄り添い共に支えあう関係作りを行なっている。季節行事や過去の事柄について対話に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行ない、必要に応じて受診や事業所来所を依頼し、ご家族が支援体制の一つとなるよう意識的に心掛けている。年間の行事計画の中でご家族の参加を促す行事(お花見会・納涼会・温泉外出等)の設定も行なっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月の「お便り」を通じて入居者の近況を報告すると共に、入居者がお手紙や電話を利用してご家族と関係付けができるよう援助している。家への外泊や日帰り外出等を積極的に勧めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に使い慣れていた理美容室に通い続ける入居者がいる。また、知人・友人等の面会来所もあり継続的な交流が出来るよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全てにおいてベストな場面ばかりではないが、様々な場面において入居者同士での支えあいや関わりが日常的に見られる。お世話好きな入居者にうまく力を発揮してもらえよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された入居者及びご家族には特に関係は継続しては いないが、ご家族から要望があれば支援に応える用意はあ る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日常的な会話の中から希望や意向を引き出し 支援するよう努めている(献立・ドライブ等)。また、聞き取り困 難な場合には、本人の日常の様子から勘案し、本人らしい生 活がおくれるよう心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にケアマネ及びご家族から在宅時での生活のご様 子を把握し、グループホームでの生活に活かせるよう図って いる。また従来のMDSシートの他に、今年度よりセンター方 式一部シートの併用を行い出来る事・出来ない事の他にさら なる生活歴等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	月一回の入居者の生活状態のまとめを行い、日常的に入 居者一人一人の状態把握に努め、日頃の行動からリズムを 理解するよう心掛けている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との会話により意向を引き出し、計画作成者及び担 当・副任とによりチームケアを心掛けた計画作成を行っている。 出来る限りご家族からも計画作成に際しては参加してもら えるよう図っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリング的なまとめを行い、状況変化を捉えて いる。介護支援計画の期間に応じた見直しの他、入居者の 体調及び精神状態の変化に応じて見直しを適宜行ってい る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜・昼の介護経過記録の書式を分け、記録し易いように工夫すると共に、月1回の担当による記録総括を一定期間回覧し、職員の情報の共有化を図り支援を行っている。	○	非常勤職員やシフトの関係で「常に新しい」情報の共有に課題はある。情報BOX等の活用で見る・聞く姿勢を整えていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院介助及びご家族からの外泊・日帰り等の要望に柔軟に対応している。場合によりご家族の入居者との同室泊や部屋出しでの食事も可能なように準備されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	観劇や日帰り温泉旅行等の外出行事の際に地域のボランティアの活用や地元の演芸ボランティアの活用を図っている。また、消防署との定期的交流(避難訓練査察)等地域資源との協働を心掛けている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容において、入居者本人の状態低下に合せ訪問理容サービスを受けられる体制を整えている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の行政職員の参加及び内部研修において虐待等のテーマによる情報提供等、包括支援センターとの関係づくりを行っている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの継続性を大切にしながら、かかりつけ医の受診を行い、入居者の健康管理に努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>中条第二病院認知症専門医を定期的に受診し、認知症の状態把握に努めている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>非常勤ではあるが準看護職員を中心に健康管理を行うと共に、訪問看護ステーションとの契約を行い24時間体制での健康支援体制を整えている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入院中は病院関係者との情報交換を行い、早期退院に向けた対応に努めてきた。また訪問看護ステーションとの医療連携体制をとり退院予後に向けた支援体制を整えている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>入居時にご家族から終末期の希望は取っている。その必要が生じた時には、かかりつけ医及び訪問看護ステーションそしてご家族の参加を仰ぎ、看取りの方針の再確認を行うことでの契約内容としている。</p>	○	未だ具体的な事例は発生していないが、当事業所で取りえる方法として更なる最善の方法を模索していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>未だ具体的事例は発生していないが、重度化に向け出来る限りの支援体制を確保するよう努めている。かかりつけ医と訪問看護ステーションが大事な要素となるが、現実性として具体的方法に欠ける。</p>	○	事業所での「出来ること・出来ないこと」を更に勘案し、キーとなる訪問看護ステーションとの協働体制の確保に努めていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>ケアマネや医療関係者から十分な情報提供を願っている。本人やご家族からこれまでの生活環境や習慣等を聞き出し、入居後も継続した生活が送れるようダメージの防止に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の個別性に配慮し、声掛けや対応については十分に注意を払っている。	○	入居者に対し、更なる配慮と注意を図っていききたい。言葉かけや対応及び声のトーン等の徹底。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望の聞き取りは課題であるが、衣類の選択や買物での食材の選択及び外食時のメニュー選定等自己決定場面作りを行うよう努めている。	○	「何でもよい…」との依存的な内容になり易いことを理解した上で更なる自己決定の支援に取り組みたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースやリズムを作り出す手伝いをするながらも、職員の都合に合わせる事無く、入居者一人一人のペースを尊重するよう図っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望する理美容室に通えるよう配慮に努めている。衣類の身嗜み等もさり気なく支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の希望をメニューに取り入れ、また入居者・職員と一緒に食材準備、調理、配膳、片付けを行っている。玄関前にある家庭菜園から自前の野菜を使用することもある。外食や出前も企画し、食事を楽しむ支援に心掛けている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿病患者の多い事業所として一日の総カロリー量での制限を設けている。その中で、入居者一人一人の身体状況に合わせた支援を心掛けている。ビールを嗜む入居者へも個別的な対応をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿・排便チェックを行うと共に、リズムを把握して声掛けやトイレ誘導を行っている。その際にはプライバシーに配慮した取り組みを心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	金曜日のみ入浴休みではあるが、遅半勤務者の配置により夕食後の入浴も可能な体制を取っている。入浴に際しては声掛けタイミングを考慮しながら入浴いただけるよう工夫している。	○	しばらく夕食後の入浴スタイルが出ていない。当事業所としての入浴の特色を大切にしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の習慣パターンに応じながら休息が取れるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや新聞取り、カレンダー記入、掃除、洗濯物干し、買物、ゴミ捨て、天気表記入等出来る事を大切にしながら役割を作り出し生活での居心地の良さを大切に図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持金は事業所預りであるが、入居者の力量に応じて買物の際にサイフから支払う場面作りを行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩やおやつのお買出し、役場への書類取り、ドライブ等入居者本人の希望を聞き出しながら外出支援を積極的に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人からのドライブ外出希望や、誕生日での個別外出等出来る範囲において外出する機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の力量に応じて、手紙を出したい入居者には切手やハガキ及び代筆等の支援を行っている。希望の有る方には電話支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族及び友人・知人がいつでも気軽に来所できるように、居室やリビング等の環境作り及び職員対応に配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束のないケアを実践するために、内部研修において身体拘束に関する学習会を企画する等、身体拘束禁止についての周知徹底に努めている。	○	内部研修会等を通じて拘束禁止に関する更なる取り組みを図っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全管理上夜間施錠は行っているが、日中帯では玄関の鍵を掛けずに入居者の所在確認に努めている。外出しそうな入居者の様子を確認しながら、いつでも対応できるよう図っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中帯では、入居者の傍に寄り添いながら様子把握に努めている。夜間帯では、定時に様子を確認する他、状況に応じた見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に合わせて入居者が必要な物品は置いている。職員で保管管理する物の他、状況変化に応じた管理を心掛けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告シートを作成し、事故発生に対する分析及びその後の対策についての取組みを行っている。シートは一定期間掲示し、職員に情報の共有を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に内部研修会において救急対応講習を行い、初期対応に心掛けている。	○	今後更に、入居者の急変や事故等、実際に起こり得る場面を想定した訓練を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	冬期間を除き毎月防災訓練を企画実施している。年2回の避難訓練では消防署の立会いを仰ぎ、問題点を再確認し対応を図るよう努めている。希望としては近隣住民と防災協力員の契約を行いたい。	○	今後更に、防災訓練の一環としての地域の協力を得た災害伝達訓練や避難訓練等に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者個々の状況に応じて面会時等を通じて起こりえるリスクについて説明を行っている。また、リスクを伴う事故や体調の変化が発生した場合には、今後の対応方針等を話し合うように努めている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温やバイタルチェックだけではなく、日常の様子観察の中で体調変化等の早期発見に努めている。変化等の気付きがあれば記録や申し送りを通して情報を共有し、経過観察後にかかりつけ医の受診を図るよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者処方箋綴りを作成し、入居者の服薬状況の管理把握を行なっている。少数の自己管理者の他は職員による服薬管理とし、服薬状況の確認を行い支援を図っている。	○	使用する薬剤の目的や副作用等の最低知識を深める必要性を感じている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要に応じて一日の水分摂取量を設定し、多目の水分摂取を心掛けている。また、入居者に応じて緩下剤の定期服用を行い、排便状況の確認を行なっている。また階段昇降や散歩等運動にも配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者一人一人の力量や気持ちに配慮しながら、毎食後の口腔ケアの支援を行なっている。週二回徹底した義歯洗浄を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>水洗トイレ工事は完了したが、汚物入れ等の臭気が未だ残る。換気扇等の設置により改善を図りたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①入居者一人一人の状況を把握した中で食事作り、掃除、洗濯物干し、外出等の生活日課に職員が寄り添い、協働した生活支援を心掛けている。
- ②生き甲斐の創造をテーマに、入居者一人一人に役割を探し出し、日常生活の中で「自分らしさ」の自己実現を模索している。
- ③地域との連携をキーワードに、事業所をより理解してもらう意味で「介護予防普及啓発事業」の委託を受け、公開講座を企画し地域に向け発信している。